

恵庭岳

○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動は静穏に経過しました。

平成 18 年は火山情報の発表はありませんでした。

○ 概況

・火口や噴気の状況（図 1～3）

6 月 30 日及び 7 月 25 日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、山頂東側の爆裂火口上部から白色の弱い噴気が認められました。その状況に変化はありませんでした。

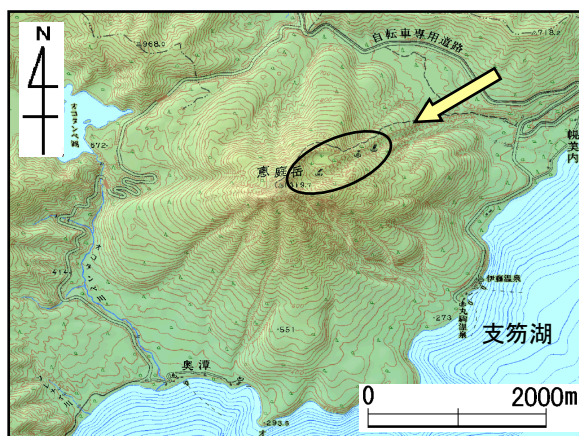


図 1 恵庭岳 周辺地形図（黒円：山頂爆裂火口）

RG: 1 E: 1.00 SC:

06/06/00

15:27:15

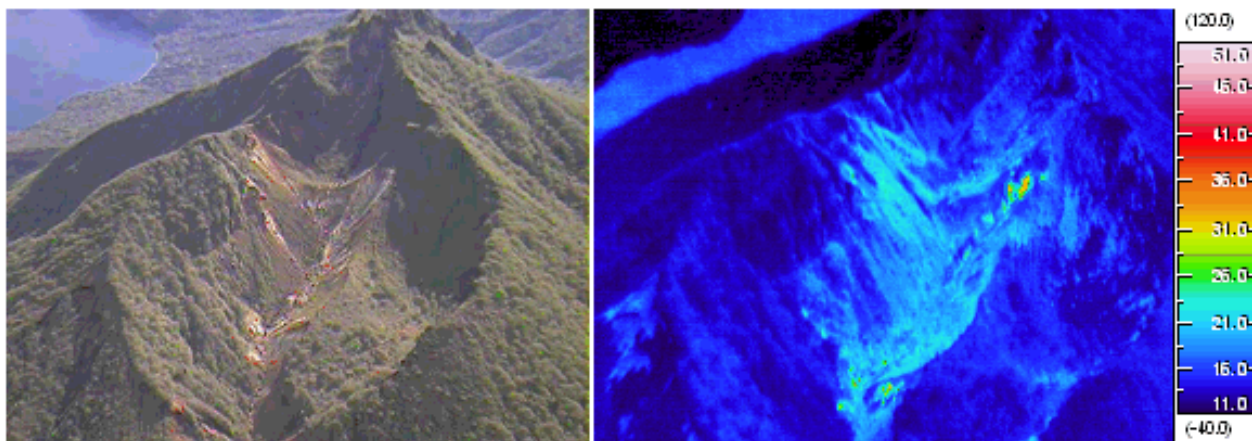


図 2 恵庭岳 赤外熱映像装置*による山頂爆裂火口の表面温度分布
(2006 年 6 月 30 日 地形図中→方向から撮影)

* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

参考：

山頂部には西に開く火口と東に開く馬蹄形の爆裂火口があります。東側の火口では現在も噴気活動が続いています。1993 年に実施した機動観測により、東側の火口で沸点程度の地熱と弱い噴気が認められていました。

資料中の地図については、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています。（承認番号 平 17 総複、第 650 号）

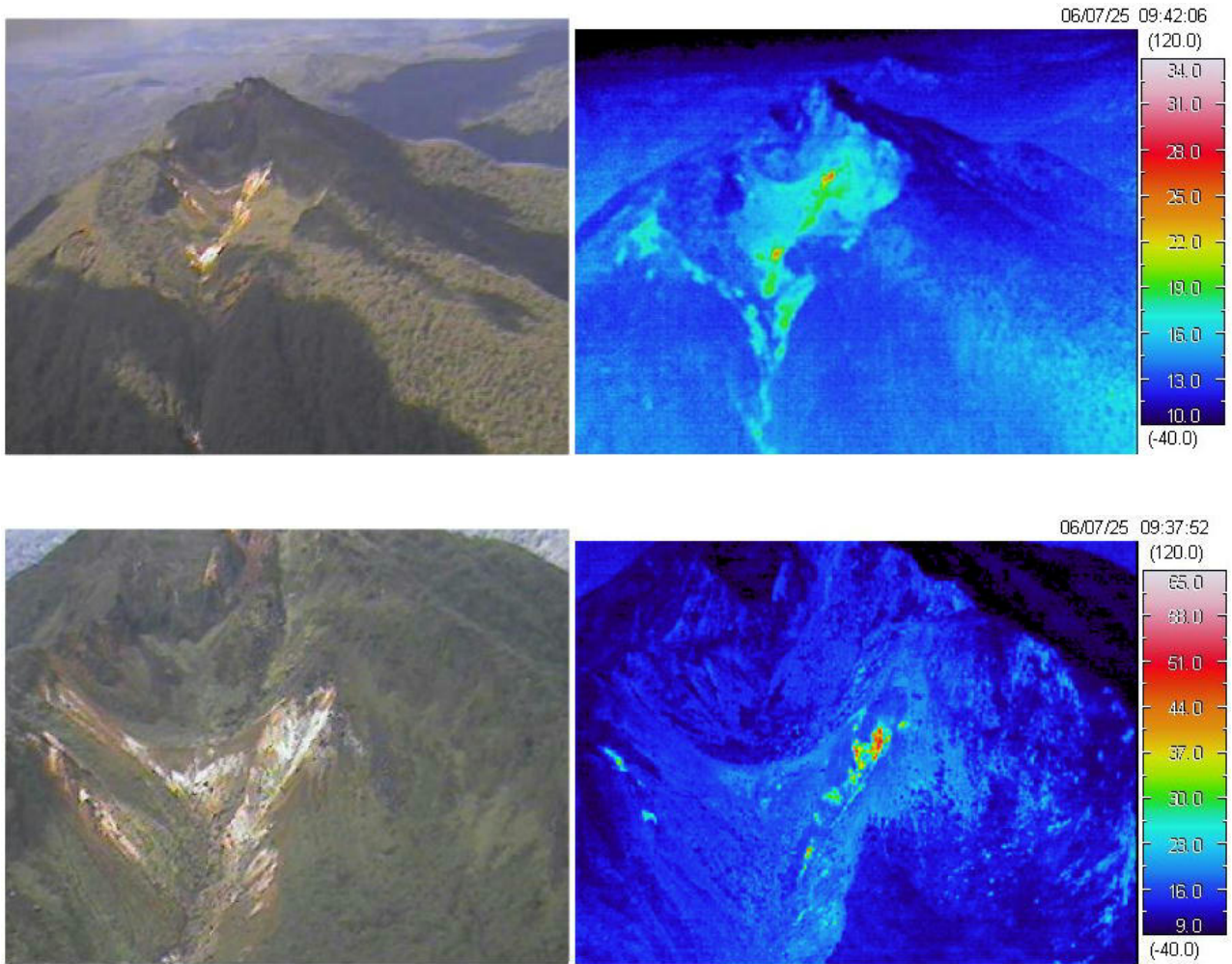


図3 恵庭岳 赤外熱映像装置による山頂爆裂火口の表面温度分布
(上段：山頂爆裂火口 下段：同火口上部の拡大 2006年7月25日 地形図中→方向から撮影)

- ・ 赤外熱映像装置による観測では噴気及び地熱域に対応した高温域が認められましたが、顕著な熱異常や地熱域の広がりなどはなく、前回（2005年3月23日）と比べて特に変化はありませんでした。